

濱口大明神縁起 (その3)

濱田康三郎(かわせみより)

子供らしい想像であります、私には何とはなしに此のお二人の間には浅からざる御関係がおありになるのではないかとそんな気がしてならないのです。いかがでしょう、それは私自身の愚な幻想に過ぎないのでございませうか。」そう云い終って、婦人は何事か異常な返答を楽しみ期待しているかのように、緊張し切って座に復した。あまりにも突飛な彼女の質問は、司会者アーサー・デイオシイをはじめ会衆全部をして、あっけにとられさせた。

それに何の不思議があったろう。どれ程に彼が、日本の風物を絵のように写したその名文をもって、最近めきめきと売出して来たハーンであり、彼等が日本協会の会員達であったにしても、多忙な日々の務に追われ勝ちな彼等の皆が皆、彼の著書に一々目を通してはななかつた。彼等の大多数は、事実、ミス・ロレッツの質問を了解することさえ出来なかつたのであつた。

『何だね、あの婦人の尋ねているのは。』

『ハマグチ・ゴヘイって、どんなことをした人間か、君は知っているか。』

『キシユウというのは、トクガワ・ショウグンの親族のダイミョウの領土だったのだよ。』などとささやき交わすものもあつた。

しかもその一方に、婦人の意味を推察し得た少数の人々は、それだけにまた彼女の向こう見ずな不躰な質問に、他人事ならず肝を冷やさずにいられなかつた。何故かなれば、どれ程に小さい島国であると言っても、とにかくに四千万からもの人口を有する日本の国なのである。ハマグチなる姓を持てる人間は何千、何万人とあるにちがいはない。それを大隈を名乗る人を誰も重信伯の甥であり、安藤と呼ぶ男をことごとく広重の子孫の絵師であるかのように早合点して、こうした会場の真中で、藪から棒に、真正面から問いただすなどとは、あまりに常識を失した行為と称せねばならなかつたから。

(つづく)

<お客様の声>

今日は東日本大震災から6年という事で、改めて防災の勉強を、と思い来ました。防災センターで3D映画や3階の当時の映像を見て、他人事ではないと心が痛みました。

その後、記念館へ戻ってくると、きれいなお花がところどころに生けてあり、心がホッコリしました。来て良かったです。(女性)

以前から来たかったのですが、やっと念願が叶いました。でも、もっと館内をゆっくり見学したかったです。また来ます。(館内の見学の後、販売している書籍のほとんど全部を買ってからの立ち話で。)その後、この一行は堤防、耐久社、銅像を見て広八幡神社へ向かいました。

(横浜から来られた大学の先生)

【館長の日記】

館長は、2月26、27日淡路島の淡路夢舞台国際会議場で開催された「第2回全国被災地語り部シンポジウム in 西日本」という催しに参加してきました。第1回目の昨年は、宮城県の南三陸町でした。その時は、パネラーとしての参加でしたが、今回は実行委員を依頼されたのでした。430名という大勢の方々が参加されていました。阪神・淡路大震災、東日本大震災だけでなく、熊本地震、雲仙岳災害等々、そして次に大津波が予想されている高知県黒潮町は未災地ということでの話がありました。

災害が続いている我が国で、被害を減らす方策を皆で考えようということは今後も継続していく必要があると感じました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

*記念館だけの入場は無料です。

